2026年11月25日

当社・日本関係人口協会共催　TENOHA特別トークイベント「地域と都市のあいだに新しい関係をつくる ～関係人口と地域共生の拠点づくり～」

当社 環境エネルギー事業本部 松前事務所所長 関口 冬樹が登壇しました

2026年11月17日（火）、東急不動産（以下、「当社」）と一般社団法人日本関係人口協会共催のトークイベント「地域と都市のあいだに新しい関係をつくる ～関係人口と地域共生の拠点づくり～（以下、「本イベント」）」がTENOHA代官山とオンラインのハイブリッドで開催され、当社環境エネルギー事業本部 松前事務所所長 関口 冬樹が登壇しましたのでお知らせします。

本イベントは、「関係人口」「地域共生」を切り口に、地域と都市の人々が出会い、継続的な関係を育みながら、ともに地域の未来をつくるために必要な場や仕組みを考えることを目的として開催、自治体関係者・企業等から約100名の方が参加しました。トークセッションでは、日本関係人口協会代表理事／『ソトコト』編集長の指出一正氏、studio-L代表の山﨑亮氏とともに、地域と都市をつなぐ新しい関係性や地域活性化の未来について活発な議論が行われました。



TENOHA代官山 / イベント会場の様子



登壇の様子

セッションで関口は、「再生可能エネルギーから始まる、地域と都市の新しい関係」をテーマに、「発電する」から「地域とつながる」への転換を提唱しました。45歳で松前人となり、松前町と東京を行き来する二拠点暮らしを実践する自身の経験から、「まちの住民」「ふるさと住民」「つなぐ人（ハブ）」それぞれの役割を認め合うことが人口減少に抗う力になると述べました。

また、産業誘致は地域の雇用を生むだけでなく、周辺の事業者をはじめ様々な機関との協力関係の呼び水となり、都市と地域を結び付けて関係人口の増加をもたらすと説明しました。松前では風力事業に関連して、松前高校との連携や、パートナー企業との協定による繋がりの「見える化」に取り組んでおり、地域と接点を持つ人を確実に取り込む施策として有効であると述べました。



トークイベントの様子



パートナー企業との協定締結の様子

さらに、地域と都市の関係を長続きさせていく秘訣として「割勘」の精神を挙げました。これは、どちらか一方に負担が偏らないよう、お互いが対等な負担を心掛けることが重要だという考え方です。その上で、地域と都市の融和には、両者を「つなぐ」ハブ人材が不可欠であるとし、その育成が重要であり、双方が育成の責任を負うべきだと強調しました。


TENOHA松前における
交流スペース


松前高校の生徒との
ウインドファーム見学


TENOHA代官山での松前町イベントの様子

最後に関口は、地域と都市をつなぐ連携の中でも事業を通じた連携が最も強いとし、事業を軸に地域と深く関わりながら、現地の地域創生に取り組んでいくことの重要性を述べて結びました。

当社は、風力事業をはじめとする事業を通じて、地域との連携を一層強化し、地域の脱炭素化と経済の好循環の両立を図ってまいります。

東急不動産
© 2026TOKYU LAND CORPORATION All rights reserved

■開催概要

▽タイトル

TENOHA特別トークイベント
「地域と都市のあいだに新しい関係をつくる～関係人口と地域共生の拠点づくり～」

▽日時

2026年11月17日（火）18時00分～19時30分

▽共催

東急不動産株式会社、一般社団法人日本関係人口協会

▽登壇者

指出 一正 氏（日本関係人口協会代表理事 / 『ソトコト』編集長）
山﨑 亮 氏（studio-L代表／関西学院大学教授）
関口 冬樹（東急不動産株式会社 環境エネルギー事業本部 松前事務所所長）

▽場所

TENOHA代官山（東京都渋谷区代官山町20-12）および オンライン

以　上

© 2026TOKYU LAND CORPORATION All rights reserved